



プログラム名	オリエンテーリング		活動時間 2～6 時間
概要	<p>○グループで地図を見ながら各所に設けられたポストを見つけ、時間や点数を競う。</p> <p>○安全に活動し、閑谷の自然にふれる。</p> <p>○最大人数 320 人</p> <p>■無料</p>		
ねらい (SDGs)	 	<p>○閑谷の豊かな自然の中で活動することで、自然を愛する心を育む。</p> <p>○活動を通して協力することや判断する事の大切さを学ぶ。</p>	
準備物 (服装など)	<p>○教育センター・・・地図、チェックカード、ビブス、方位磁針 本部無線機、小型無線機、無線機アンテナ</p> <p>○研修団体・・・運動着（長袖長ズボンが望ましい） 帽子、水筒、タオル、ナップサック、軍手、雨具 腕時計、筆記用具、救急用具 など</p>		
研修の流れ	<p>○集合場所に整列（団体引率者の指導）</p> <p>○研修生への説明および用具配布（センター職員/集合場所）</p> <p>○引率者への説明および用具配布（センター職員/本部）</p> <p>○活動開始/終了</p> <p>○貸出用具回収</p> <p>※終わりの整列や挨拶は必要ありません。</p>		
研修場所	<p>集合場所</p> <p>○屋外・・・つどいの広場 キャンプファイヤー場</p> <p>○屋内・・・プレイホール 各研修室 ロッジ</p>	<p>活動場所 オリエンテーリング道</p>	
研修生への留意点	<p>○常に班でそろって行動する。</p> <p>○走らない。</p> <p>○茂みの中などの決められたコース以外に行かない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿、イノシシ、マムシ、ハチなどの動物を刺激しない。</li> <li>・コースを間違えたら、前のポストに戻ってコースの確認をする。</li> </ul> <p>○体調の悪化やケガをした場合には、速やかに観察者に報告する。</p> <p>※容体が改善しない場合は、センター職員が送迎可能地点（舗装された道路）まで車で迎えに行く。</p> <p>○コース上で昼食をとる場合はごみを残さないようにする。</p> <p>○ゴール後、衣服をしっかりとたく。（マダニ除去のため）</p>		

引率者への  
留意点

班分け  
5～6人班

○事前準備

- ・研修生の班分けをする。(5～6人が望ましい)
- ・引率者の観察ポイントの配置を決める。なお、本部にも最低1名必要。(引率者の人数が少ない場合はセンター職員にご相談ください)
- ・各班のスタート・ゴール時間を決める。(各班のスタート・ゴール時間に時間差をつける場合が多い)

※オリエンターリングの説明には10分程度を要し、ゴール時間は活動終了予定時刻の30分前の設定を推奨しています。

○研修当日(出発前)

- ・必要な無線機の数を中心職員に伝える。
- ・研修生に水筒、筆記用具、時計などの必要物を用意させる。
- ・研修生に、トイレを済ませて開始時刻前までに班ごとに整列させる。
- ・引率者は、研修生への説明前に本部に集合し、無線機の使い方の説明を受ける。
- ・無線機の説明が終わり次第、本部担当以外の引率者は監察ポイントへ出発する。

○研修生への説明後

- ・ゴール時間の周知を研修生に徹底する。
- ・チェックカードに出発時刻を記入させ、出発の合図をする。

○活動中

【本部】

- ・監察ポイントにいる引率者の方と連絡を取り合う。
- ・ケガや体調不良者が出た場合、対応や連絡等行う。
- ・体調不良者の歩行が難しい場合は、センター職員と連絡をとり、車送迎の手配をする。
- ・無線機の電波が届きにくい場合は、黄葉亭付近の観察ポイントに立つ引率者に中継依頼をする。

【観察ポイント】

- ・研修生がコースから外れたり、危険な行為をしないよう指導する。
- ・ケガや体調不良者が出た場合は、本部と連絡を取り合い、搬送等の対応をする。
- ・終了時刻から逆算して研修生をコース内に取り残さないようにゴールに向かう。途中で研修生を見つけた場合は、ゴールに向かうよう指示する。
- ・無線機の電波が届きにくい場合は、各ポイントで中継をしながら連絡を取り合う。

○活動後

- ・各班のチェックカード、地図、ビブスを回収する。
- ・ビブスは番号順に揃えて、玄関脇のハンガーラックに掛ける。
- ・建物に入る前に衣類をしっかりと拭く。